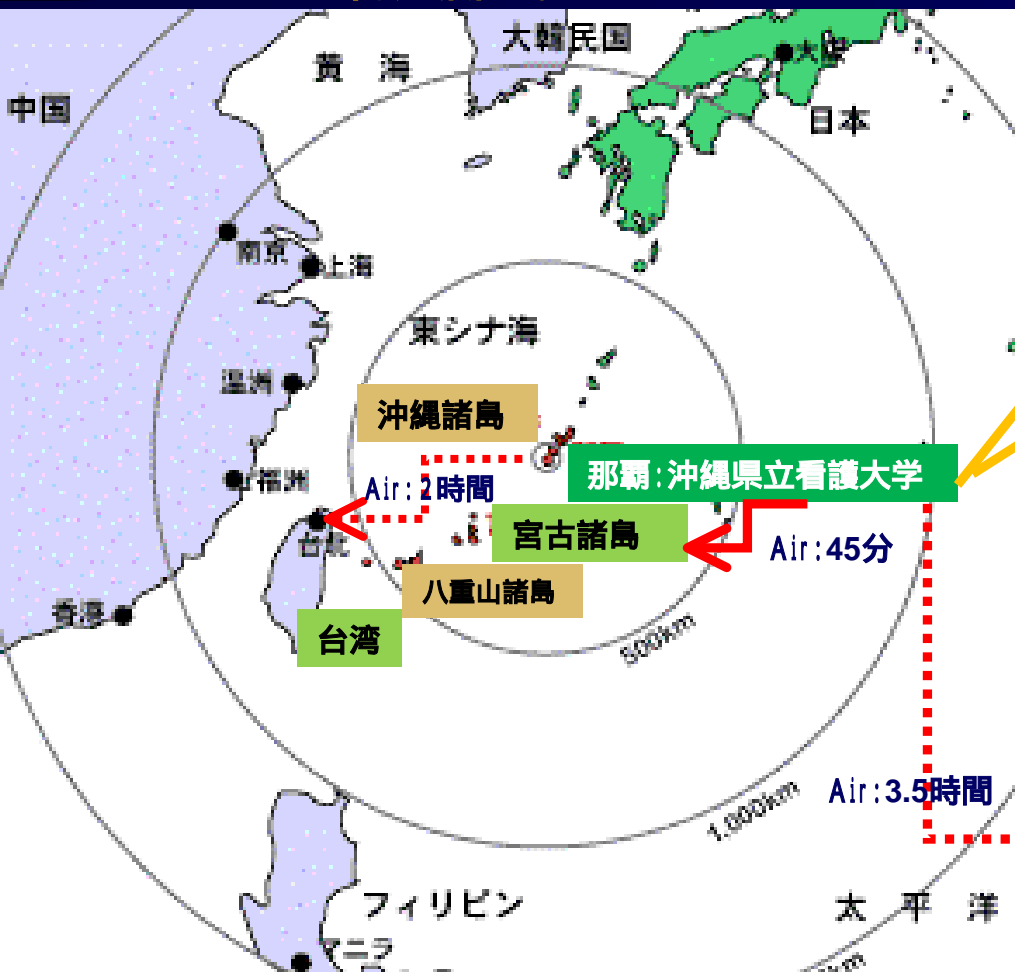


島嶼看護の高度実践指導者 の育成

沖縄県立看護大学
大学院保健看護学研究科
保健看護学専攻

沖縄県における島嶼看護の必要性

39の有人離島



- 国際交流協定
- 国際交流協定予定
- 現地教育プログラム

島嶼看護における教育研究課題

海に囲まれ限定された地であること
による多文化圏との交流と歴史、そ
の健康生活への影響

島嶼の自然的文化的諸条件からくる
健康生活上の課題と問題解決

本大学における島嶼看護の取組

看護学部看護学科

統合実習 卒業論文 研究への導入 原著購読 島嶼に関する卒業論文						
基礎看護	国際保健看護 ハイ大学研修	地域保健看護 離島の実習 島嶼保健看護論	精神保健看護	小児保健看護	母性保健看護・助産 離島の実習	成人保健看護 離島の実習

別科 助産専攻
離島実習

入学定員：80名

(内、地域推薦による離島過疎看護に興味のある者の受け入れ)

入学定員
20名

大学院博士前期 後期課程

文化間保健看護分野		生涯発達保健看護分野		先端保健看護分野	
保健看護管理	地域保健看護	母子保健看護	成人・老年 保健看護	新領域保健看護	島嶼保健看護 申請教育プログラム

入学定員：前期6名、後期2名

島嶼在住の大学院生

離島在住学生

6名

全院生

23名



伊江島1名



栗国島1名



座間味島2名



大学

宮古島1名

南大東島1名



島嶼在住学部卒業生：32名(2008年現在看護職として在職中)

島嶼看護に関する教員の活動

< 沖縄県との共同事業 >

離島過疎地域支援事業(2000～2004)

< 学長奨励研究費 >

島嶼における実践的協働プログラム開発の試み等(2007)

< 科学研究補助金 >

島嶼沖縄における保健看護職者間のテレ・ファシリテーションに関する研究(2007)

< 宇流麻学術研究助成金 >

離島の子育てソーシャルサポート・ネットワーク形成に関する研究(2007)

島嶼看護教育の充実に向けて の改革課題

島嶼での看護リーダー(高度実践指導者)育成

島嶼看護教育(学部・大学院)の基盤整備

島嶼現地での教育研究指導の必要性

国際的視野と多職種連携能力の育成

島嶼看護学の確立(国際交流による検証含む)

支援期間終了後の自主的・恒常的な展開の方略

大学教員の
指導力向上

現地指導
教員の確保

国際的学術
交流の確立

教員の昇任
海外研修の強化

特任教授
島嶼の教育環境の強化

臨床教授

島嶼看護学領域の常設化と入学定員増

島嶼看護学の高度実践指導者育成の継続と拡大

アジア太平洋地域との交流継続

保健看護学研究科の人材養成目的

博士前期課程

広い視野に立って看護における**高度なケアの実践**や**教育**のできる**専門的能力**を養う、又は、**学識**を深めることによって**研究能力**を養うことを目的とする

博士後期課程

看護分野における研究者として**自立した研究活動**を行うのに必要な**研究能力**及びその**基礎**となる**豊かな学識**を養うことを目的とする

大学院教育実質化のための取組

教育目標達成のための科目設置

コア科目、課題研究(実践研究)

計画的履修と自立的学習支援

履修指導・研究指導概要の提示、学習・指導進捗状況報告書の提出、共同カンファレンスの開催

確実な研究指導・論文作成

補助教員の配置と複数指導体制、論文審査の要点の提示(便覧)

教員FD

国内外大学院教員と看護教育課程ならびに高度ケア技術教育方法の意見情報交換、ハワイ大学における短期研修(教授法、遠隔教育等)

修学上の院生支援

TA・RAの導入

在職のまま就学する院生への支援

遠隔教育システムの導入

週末・祝祭日の集中講義

長期履修学生制度の導入(平成21年度より)

図書館の開放(自宅での文献検索・電子資料取り寄せ、メールによる図書貸出、土日・夜間開館)

入学前の科目履修の推奨

看護実践者のための大学院 博士前期課程入学準備プログラム

文部科学省委託事業

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」

文献検索、文献クリティーク、英文読解練習等

週末集中開講、宮古島でも開講予定(9月)

受講者実績(27名)

プログラムの目的・特徴

島嶼看護の高度な実践ならびに実践的教育
研究指導ができる看護指導者の養成

島嶼住民の生活文化に根ざした看護を実現
できる高度な島嶼看護専門能力の育成

宮古島を拠点にした島嶼看護学の現地での
教育研究指導

島嶼現地指導と遠隔指導の融合型教育

本学

島嶼:宮古島

長期履修学生制度

M3

論文発表
論文審査

M2

地域文化看護論(コア科目)

多職種地域連携論(選択科目)

M1

島嶼保健看護特論

D3

論文発表
論文審査

D2

国際島嶼看護論(選択科目)

D1

島嶼保健看護特論



遠隔講義システム(TOS)
テレビ会議システム

を介した遠隔教育研究指導

島嶼保健看護課題研究

島嶼保健看護実習

島嶼保健看護演習

島嶼保健看護特論

島嶼(現地)における実践教育研究指導

島嶼保健看護特別研究

TA

RA

島嶼保健看護特論

太平洋諸島での交流研修 遠隔ゼミナール共同研究

* は新設科目

入学者受け入れ: 島嶼看護に関心を持つ者、宮古在住者に限定しない

島嶼看護の新設科目

島嶼保健看護領域

博士前期2名

博士後期1名

1年次 本学・宮古			2年次 宮古	3年次 宮古(内:太平洋諸島含む)	
島嶼保健看護特論 (2単位)	* 地域文化看護論 (2単位)	* 多職種地域連携論 (2単位)	島嶼保健看護演習 (2単位)	海外短期研修 多職種連携の実際 トライアスロン大会 救護活動 ボランティエアワーク	島嶼保健看護実習 (6単位) 多職種共同研究 課題研究論文審査
島嶼保健看護特論 (2単位)	* 国際島嶼看護論 (2単位)	博士論文審査		海外との交流と連携 島嶼大学の共同 研究の実際 育児不安と虐待防止 高齢者ケアへの活動	島嶼保健看護特別 研究 (8単位)

修了
要件

30単位以上

16単位以上

* : 科目履修可能科目、他領域から選択可能科目

島嶼現地における履修プロセス

講義ならびに現地・遠隔ゼミ



島嶼地区特有の健康問題の把握



研究計画書作成



倫理審査委員会による審査



現地共同プロジェクト研究、調査研究



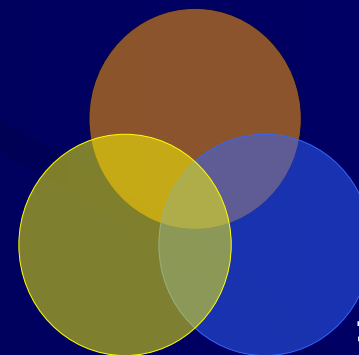
課題研究・特別研究論文審査



研究成果の公表、地域への還元

共同指導体制
グループワークによるプロジェクト型
演習・研究

学生



教員

現地指導者

修了後に期待される人材像

大学院博士前期課程：実践指導・調整能力

保健所・市町村の保健看護分野の責任者

病院の副院長、訪問看護ステーションの所長
保健医療福祉領域におけるケアコーディネーター、ケア開発者

学部・大学院研究科の現地実習指導者
大学院ならびに教員との共同研究者

大学院博士後期課程：実践教育指導・研究能力

島嶼保健看護学の教育研究指導にあたる大学教員

実践的教育研究指導にあたる臨床指導教授等

プログラムの支援体制

遠隔システムの充実(テレビ会議など)

現地の講義室、ミニ図書館の確保

現地指導者の選定、教育指導調整会議、FD教育

演習・実習のための講師または助教1名の確保

研究科教務委員会による指導体制

プログラムの適正運営に関する評価

期待される成果

島嶼看護の高度実践指導者が育成される

離島地区での保健医療福祉が活性化される

島嶼看護学が確立される